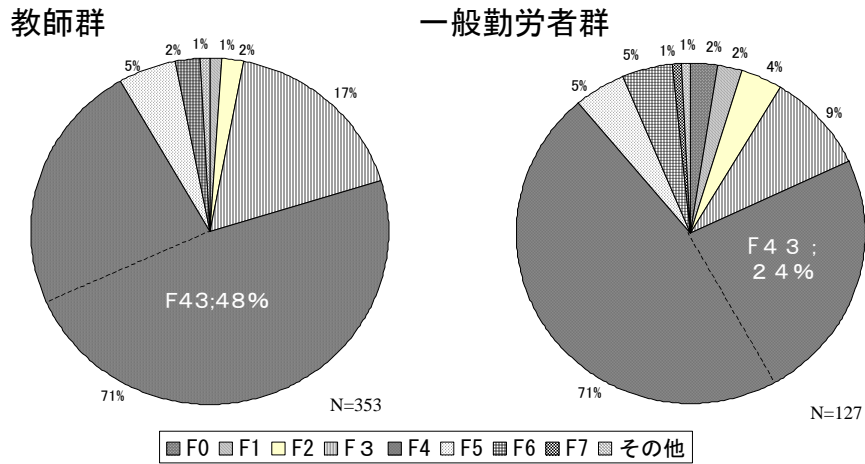


ICD-10による疾病分類

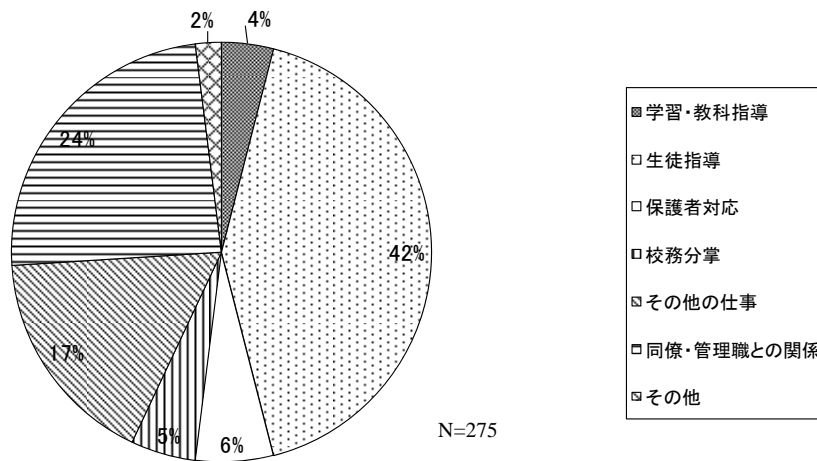


(図 1)

ICD-10 精神および行動の障害

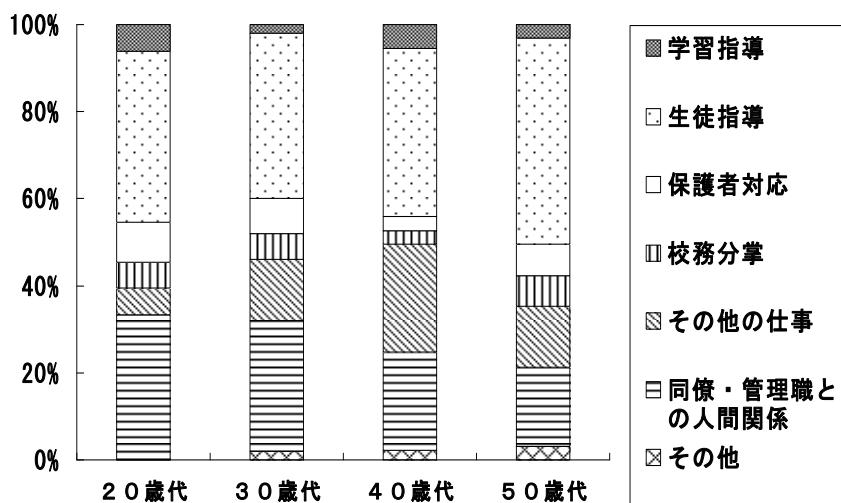
- F0 : 症状性を含む器質性精神障害
- F1 : 精神作用物質使用による精神および行動の障害
- F2 : 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害
- F3 : 気分（感情）障害
- F4 : 神経症性障害、ストレス関連障害および
身体表現性障害
- F5 : 生理的障害および身体的要因に関連した
行動症候群
- F6 : 成人の人格および行動の障害

教師における職場内ストレス

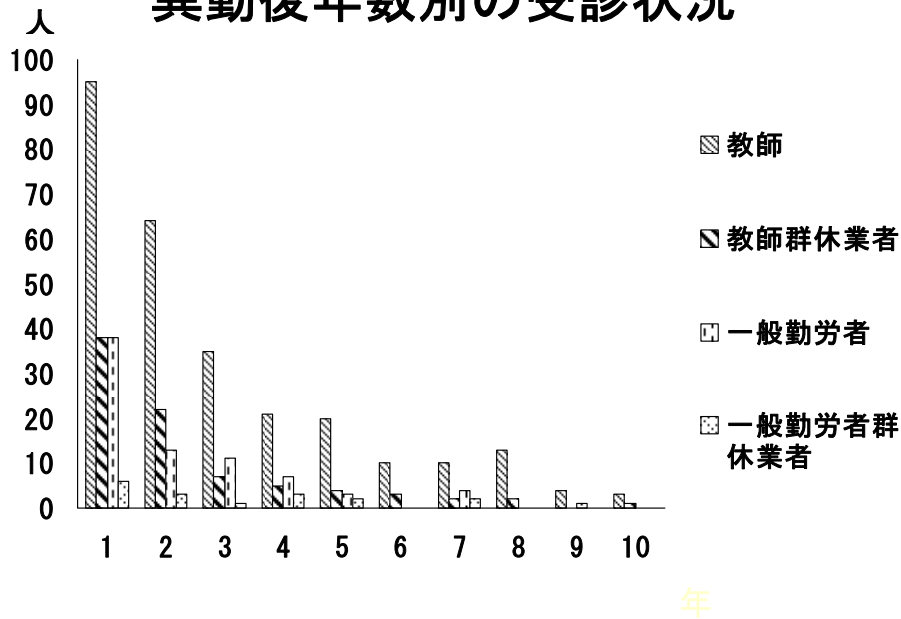


(図 2)

職場内ストレス／年代別



異動後年数別の受診状況



三葉病院 精神神経科

結果のまとめ（1）

- 受診している教員の8割近くは、精神疾患の発症あるいは悪化に、業務関連ストレスが関与していた。
- 疾患では、業務関連ストレスによる「適応障害」の発症が多かった。
- 業務関連ストレスの内訳では、児童生徒との関係が最も多かった。さらに、同僚・管理職・保護者との人間関係によるものが、約7割に上った。

三葉病院 精神神経科

結果のまとめ（2）

- 特に、児童生徒との関係や保護者対応上の悩みがある場合、休業につながるケースが多かった。
- 複数の人間関係上のストレスが重なると、休業率が上がった。
- 異動後1、2年目の受診者が多く、1年目は休業率も高かった。

三栗病院 精神神経科

業務関連ストレスの背景

- 燃えつきの条件が揃いやすい職務内容
- 多様な業務を分担してこなす現場（それに対する周囲の無理解）。小規模校では特に大変。

学校の仕事分担の一例

- 学校の仕事は、教務部、指導部、庶務部、・・・などに大きく分けられ、これらを、数名の事務職員や栄養職員を含む教職員で分担している。
- それぞれの部の担当範囲が多岐にわたるので、さらに細かく分けられる。ある学校では、教務部の下に14、指導部の下に21(33)など、合計90～100程度に分け、その多くに複数の担当者を割り当てている。

学校の仕事分担の一例 2

- このため、一人でいくつもかけもちし、例えば教頭先生の担当は25種類ある。
- さらに、様々な教育活動に関わる委員会が、17存在する。

業務関連ストレスの背景 2

- 重層的な人間関係……複数の要因が重なることも珍しくない
- 地域性や学校による特色……異動後の不
適応

職場内部の問題

- 孤立しがちな風土
- 特定の教師に仕事が集中しやすい
- 職場内の人間関係の問題
- 学校規模の問題
- ラインケアが重要

教頭・副校長の職務例

- 各種調査資料や報告書などの書類作成(年間数千といわれる)
- 校長の補佐
- 教員の指導
- 校内設備の保守点検・整備
- 備品の整備
- 地域の行事への参加(土日など)
- 保護者対応
- 研修や会議等への出張

昨今の事情

- 書類の増加と多忙化の進行……本来の業務に専念する時間をとりにくい
- 配慮を要する児童生徒の増加
- 個別的な対応を求める保護者の増加
- 対応を求められる範囲の拡大
- 制度の変化による教員生活の変化
- 以前の経験がある教師ほど、変化を強く感じやすい

不調におちいった場合

- 比較的軽症でも事例化しやすい。
- 他職種のような、勤務内容の軽減や変更等による対応が困難。
- かなり改善した状態が維持できなければ、その後の勤務継続が困難。
- 再休職となった場合のダメージが、比較的大きい。

職場復帰訓練のプログラム例

	目標及び訓練頻度	プログラム例
第1段階	職場の雰囲気慣れる時期 週3日、2～3時間	コピーとり、文書作成補助、図書管理・整理など
第2段階	教職を視野に入れた時期 週3～5日、4時間	補助的作業；文書作成補助、図書管理・整理、指導案作成、授業参観、給食・清掃指導など
第3段階	教職に立つ時期 毎日、4時間～1日	授業参観、読書・給食・清掃指導、補教、担当教科の研修、管理職の指導下における授業など